

備えて 安心・安全

「救急あんしんカード」を利用しよう!

”救急時”は初期の対応が非常に重要となり、その後の救命処置に影響を与えることが考えられるため、日頃から十分な備えをしておくことが大切です。

今月は、本市が妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田町とともに深川医師会および深川区消防組合と連携して普及活動に取り組んでいる「救急あんしんカード」の利用方法や活用状況を紹介します。

「救急あんしんカード」の利用方法

🚑 「救急あんしんカード」とは

一人暮らしの高齢者や持病のある方が、救急時に備えて、自身の病歴や服用している薬などの情報を記入しておく「カード」のことです。

普段から家庭内の決められた場所に保管しておくことで、救急時に救急隊員や搬送先の医療機関などが「カード」から救急搬送者の情報を読み取り、適切で迅速な救命処置に役立てることができます。

📄 保管方法

救急診療に必要な情報を記入した「カード」を「保管容器」に入れて、冷蔵庫扉側のドアポケットに保管してください。容器には「カード」のほか、保険証のコピーや服用している薬の説明書などを入れておくことより安心です。

♡ 「保管マーク」の表示

「カード」を保管していることが一目で分かるように、冷蔵庫表面の最上部右側に、目立つように貼ってください。

救急隊員は「保管マーク」が表示されている場合のみ、冷蔵庫を開けて中の「保管容器」を取り出します。

⚠️ 注意点

「カード」の記載内容に変更が生じた場合はすぐに修正してください。また、年に1回以上は自身の状況と記載内容に相違がないかを確認し「カード」は常に正しい情報で保管しておきましょう。

📋 申込・登録方法

市役所窓口（健康・子ども課または各支所）で申し込み「カード」の利用者名簿に登録の上、次の3点を受け取ってください。

- ① カード（黄色用紙）
- ② 保管マーク（黄色シール）
- ③ 保管容器（筒状で無色透明の容器）

※病院や診療所、町内会などを通じて受け取った場合でも、必ず市役所窓口で申し込み、利用者名簿に登録してください。

救急時の活用状況

登録された「救急あんしんカード」は、救急時の現場でどのように活用されているのか、深川消防署の後藤さん（右）、松下さん（中）、石橋さん（左）に話を伺いました。



Q 救急時の活用方法について

救急要請があった際、まず「カード」の登録名簿を確認し、登録の有無を隊員間で共有します。登録があれば保管場所から「カード」を取り出して、救急搬送者の情報を収集し、搬送先の医療機関で医師や看護師に引き継いで救命処置に役立てています。

Q 令和3年の活用実績について

深川管轄では、1117件の救急出場がありました。そのうち、116件で「カード」を救命処置に役立てることができています。その一方で「カード」の登録はされていたものの、紛失や未記入などの不備により、活用できなかったケースが58件ありました。

Q 役に立った事例は

心臓に持病のある方が胸の苦しみを訴えていると救急要請がありました。要請した家族は救急搬送者の詳しい病名や服用している薬を把握しておらず、本人も苦しんでおり、直接話を聞くことができない状態でしたが、保管されていた「カード」から救急診療に必要な情報を確認することができたため、迅速な救命処置につなげることができました。

Q 利用にあたっての注意点

「カード」にはより詳細な情報を記載してもらうことで、医療機関までの搬送時間の短縮につながりますが、古い情報や誤った情報が記載されていると逆効果になってしまうため、注意が必要です。

Q 市民へ一言

実際に救急要請をするとき、気が動転してしまう方も多く、自身や家族の情報をうまく説明できない場合があります。安心・安全のためにも、「救急あんしんカード」の登録をお願いします。

「救急あんしんカード」登録済の方へ

様式の変更について

2月より、救急時の活用に加え、介護保険サービスを受けている方の入退院の支援を目的に、介護認定の状況や担当ケアマネジャーなどの記載を新たに設けました。カードの記載内容を見直すとともに、新様式への変更をお願いします。

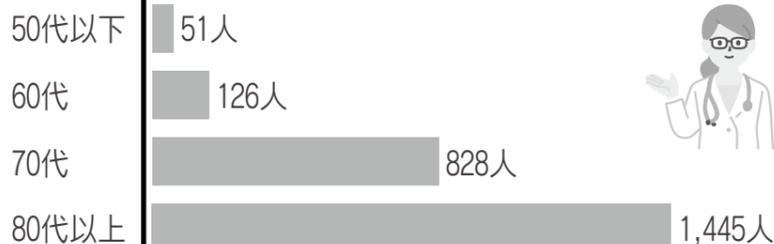


保管容器の変更について

救急時に保管容器からカードを取り出しやすくなるため、容器の形状を一部変更しました。6月以降の新規登録者から新しい保管容器を配布していますが、古い容器をお持ちの方でも、希望される場合には、新しい保管容器を配布しますので、申し出てください。



▼令和3年度市内「救急あんしんカード」登録人数



【問合先】
健康・子ども課
障がい福祉係
(☎26-2152)